

生駒市都市計画マスタープラン 改定に向けた市民意向調査 実施報告

◆ 実施概要

1. 調査のねらい

- ・ 市民の認識を基本とした**地域ごとの課題**把握
- ・ 市民の**施策各分野**に関する**評価、関心**の把握
- ・ **住まい方・働き方**に関する**ニーズ**の抽出
- ・ 地域住民の**つながりや活動**が生活の満足度を与える**影響**の把握
- ・ **市民の生活行動**把握

2. 調査項目

- I 分野ごとの満足度・重要度
- II 住まいに関する考え方
- III 働き方について
- IV 地域やコミュニティとの関わりについて
- V 回答者の家族について
- VI 回答者自身について

◆ 実施概要

3. 調査方法

- ・ 郵送による配布・回収
- ・ IDの付記により回答者の居住地域を把握

4. 調査期間

令和元年12月2日
～ 12月16日

5. 回収率等

配布数	4000
有効回収数	1956
回収率	48.9%

(令和元年12月20日到着分)

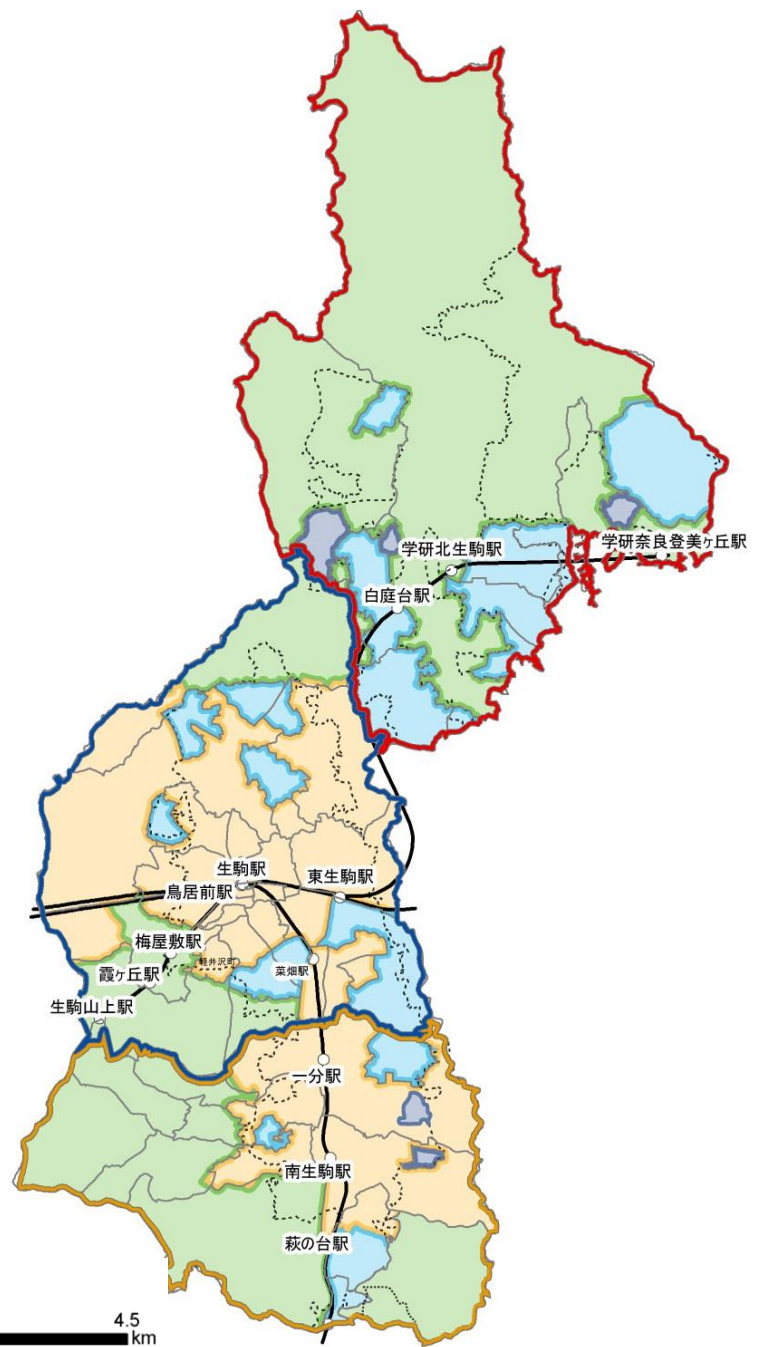
◆ 実施概要

地域類型

- 旧集落
- 計画的市街地(旧)
- 計画的市街地(新)
- 既成市街地

地域区分

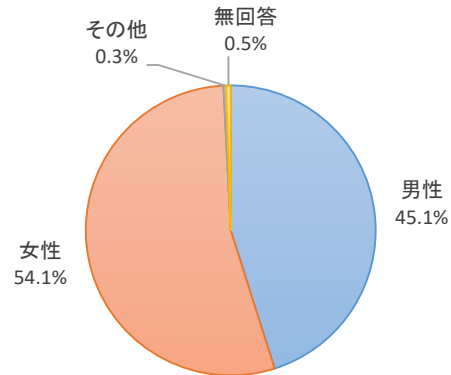
- 北部
- 中部
- 南部



回答者属性

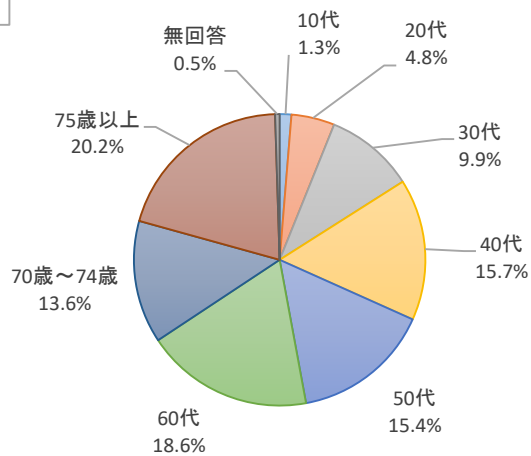
1. 性別

N = 1956



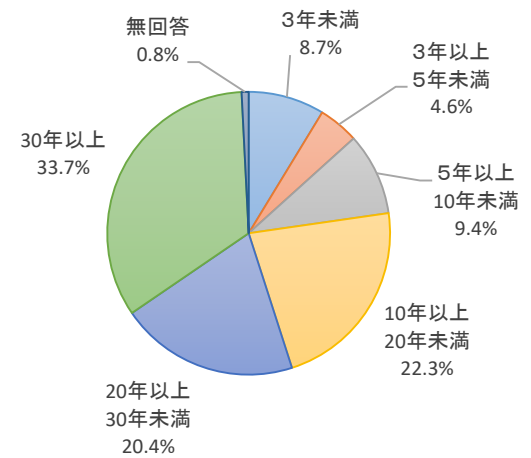
2. 年代

N = 1956



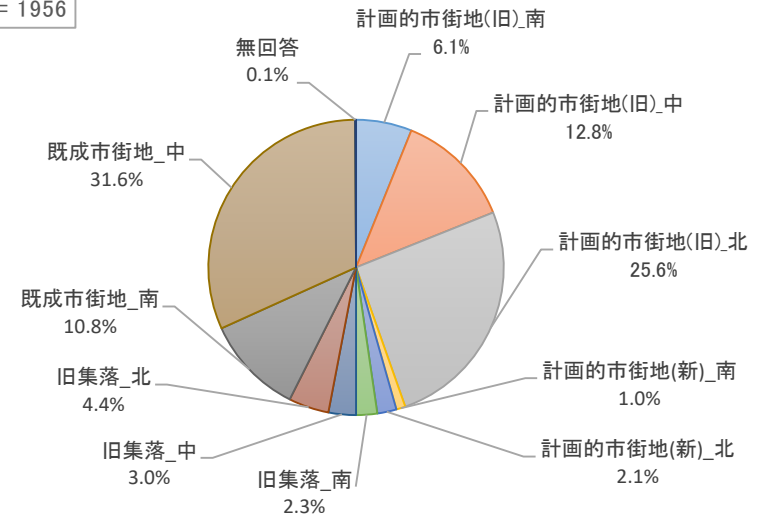
3. 生駒市での居住期間

N = 1956



4. 居住地（地域類型別）

N = 1956



I . お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

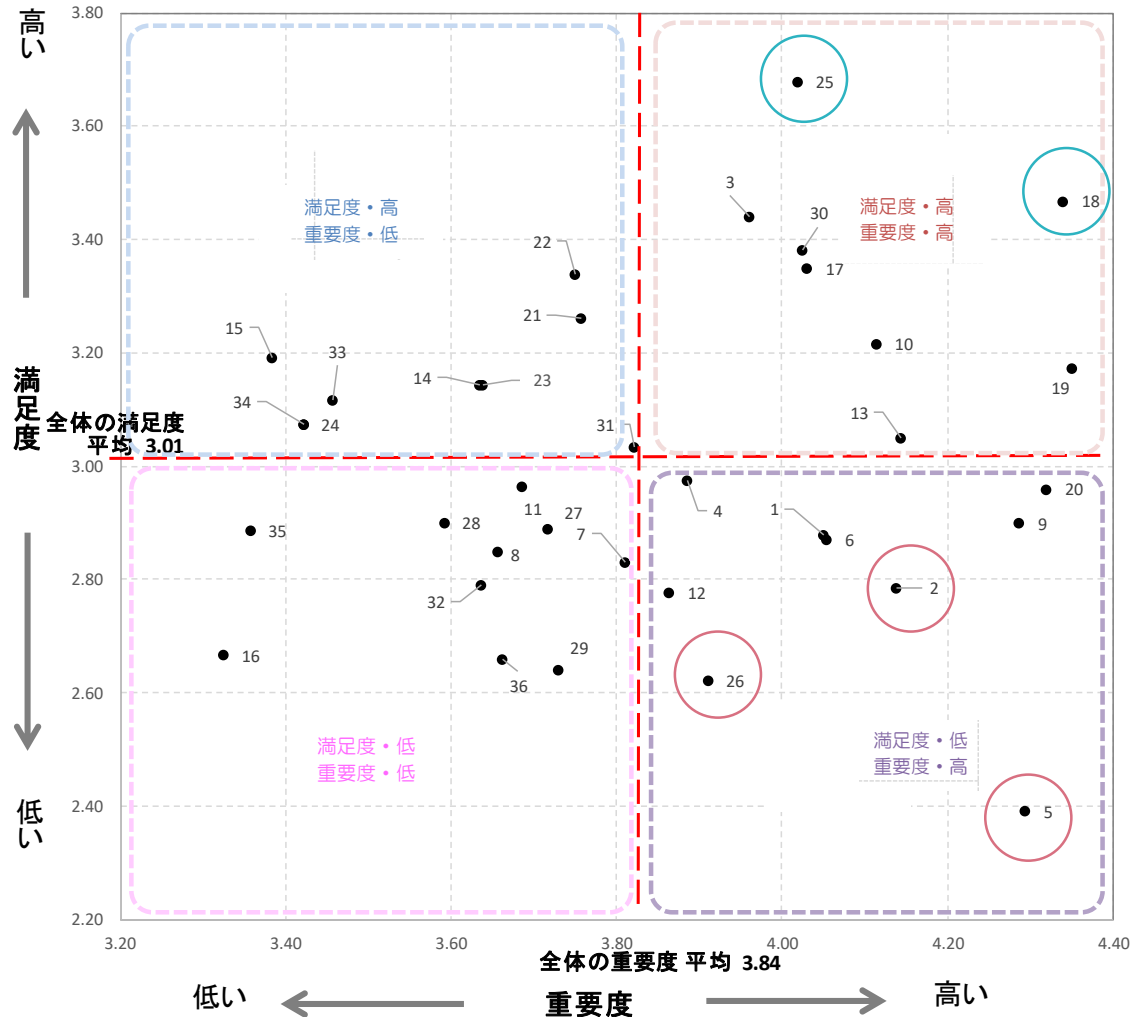
分析の視点

1. 地域類型別の課題把握
⇒「地域特性に応じたまちづくり」の検討材料に
2. ライフステージ別の関心度の把握
⇒重点的に取り組むべき施策の検討材料に
3. 前回調査からの推移の把握
⇒現行施策の効果検証
4. まちづくりの満足度・重要度の関係分析
⇒取組の方針や施策立案の検討材料に

I . お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問1 全体

生活道路や歩行者環境等、身近なインフラへの満足度が低く、重要度が高い。

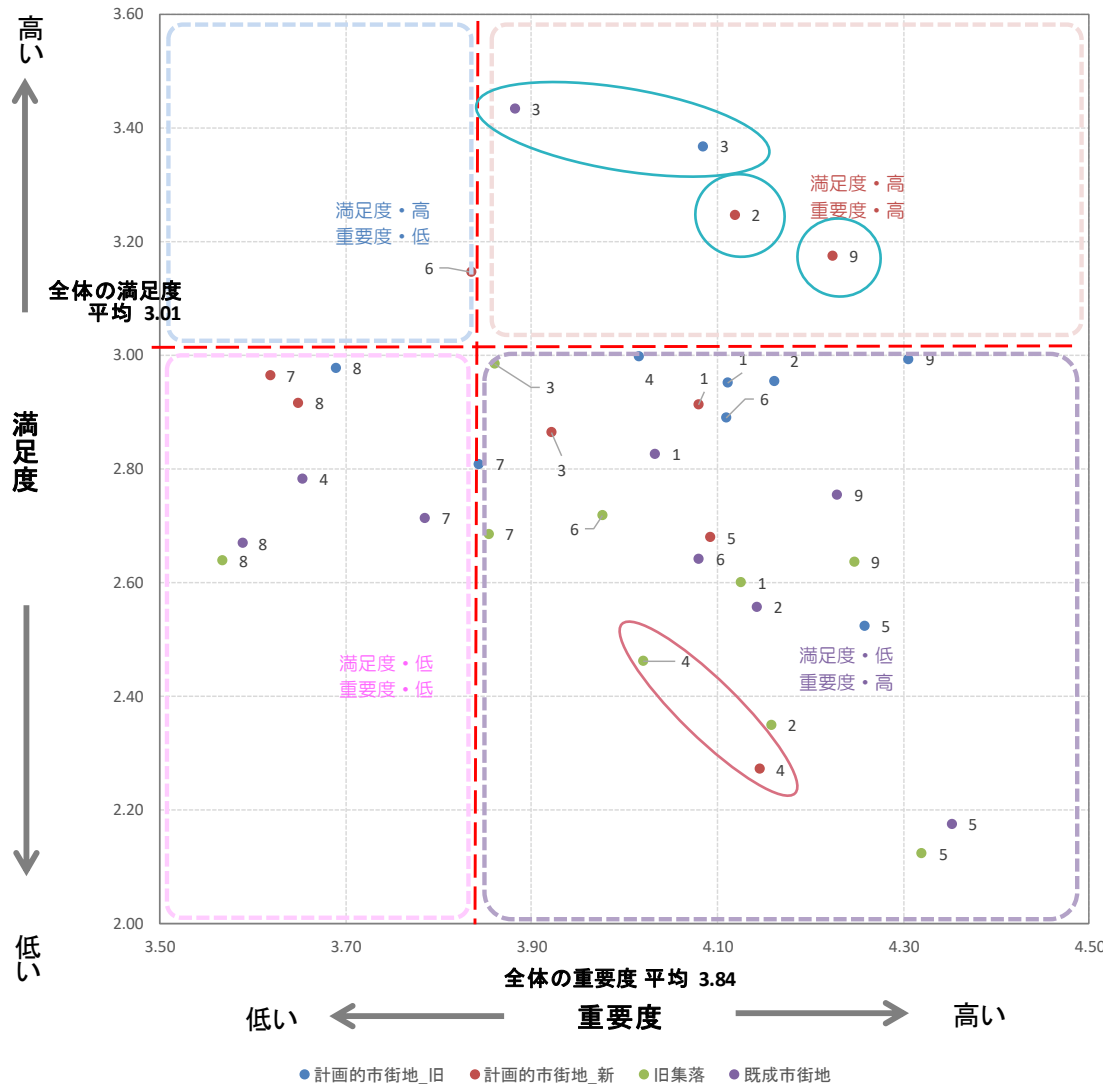


1	国道・県道等の幹線道路の整備状況
2	身近な生活道路の整備状況
3	電車の利便性
4	バスの利便性
5	歩行者・自転車のための道路の快適性・安全性
6	公共施設や駅舎・駅周辺における歩道の段差解消、エレベーター設置など
7	最寄駅周辺の駐車・駐輪施設の充実度
8	公園の魅力や使いやすさ
9	災害に対するまちの安全性
10	日常の買い物の便利さ
11	子育て支援施設への行きやすさ
12	高齢者福祉施設への行きやすさ
13	病院・診療所等への行きやすさ
14	生涯学習施設（図書館・コミュニティセンター等）への行きやすさ
15	公園への行きやすさ
16	体育館等の運動施設への行きやすさ
17	子どもの教育環境の良さ
18	治安の良さ
19	災害時等の自分の住まいの安全性
20	災害時等の避難場所や避難経路
21	緑・農地・水辺等、自然を楽しむ空間の充実度
22	まちなみや景観の良さ
23	街路樹の美しさ
24	歴史や伝統文化の身近さ
25	閑静でゆとりのある住環境
26	商店街など身近なお店の活気
27	お気に入りの飲食店やお店の充実度
28	お店以外のお気に入りの場所の充実度
29	働く場の充足度
30	総合的に見た地域への満足度
31	地域内の知り合いや頼れる人の多さ
32	地域での自分の思いや声の届きやすさ
33	地域の祭りやイベントなどの充実度
34	地域に活気をもたらすサークル活動や市民活動の活発さ
35	地域での新しい活動へのチャレンジのしやすさ
36	地域活動の世代交代の進み具合

満足度と重要度の平均得点を算出し、2軸で分布図を作成。
 満足度：満足(5),ほぼ満足(4),普通(3),やや不満(2),不満(1)
 重要度：重要(5),やや重要(4),どちらともいえない(3),あまり重要でない(2),重要でない(1)

I . お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問1 地域類型別（都市施設・基盤）

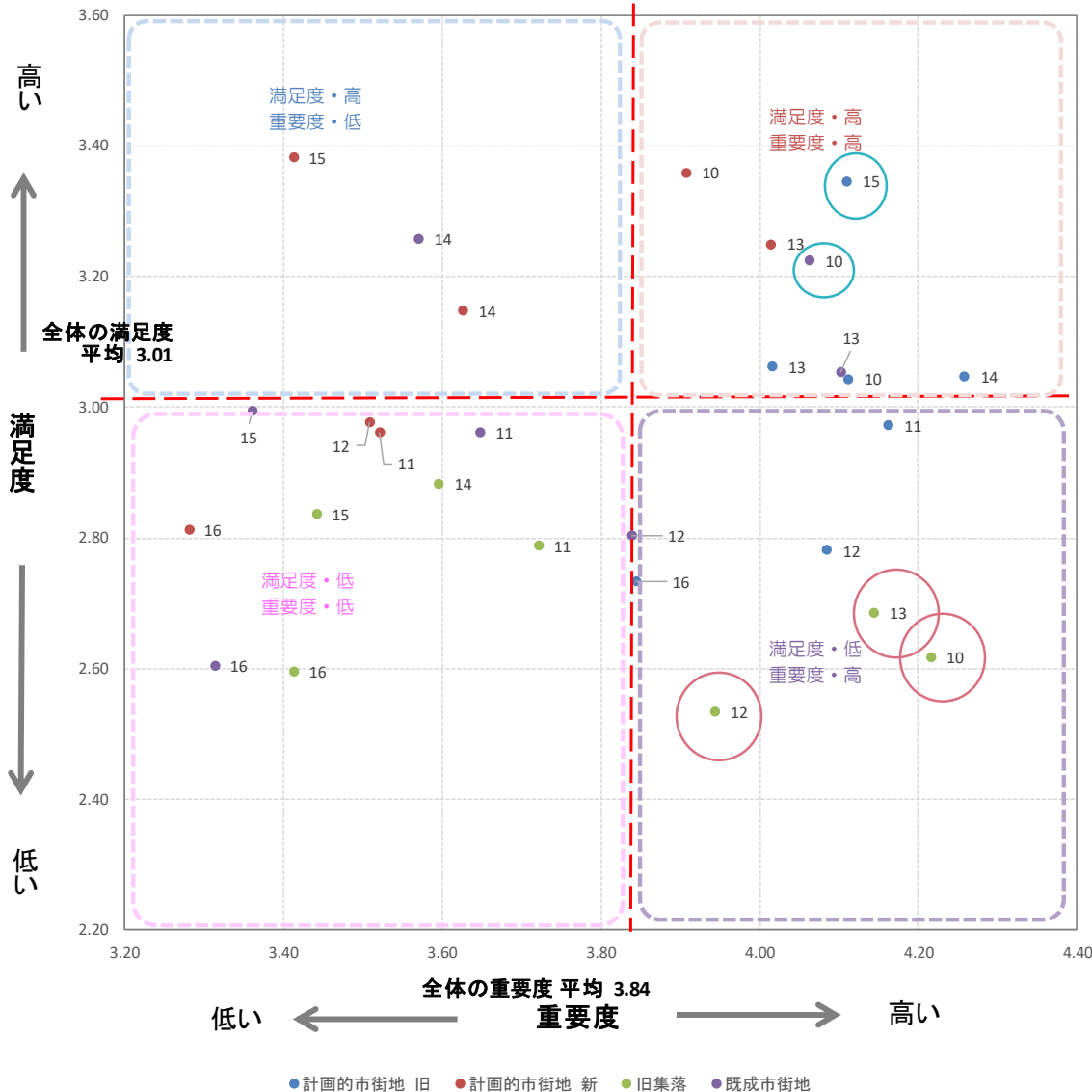


計画的市街地（新）、旧集落では、「バスの利便性」の満足度が低く、重要度が高い。

1	国道・県道等の幹線道路の整備状況
2	身近な生活道路の整備状況
3	電車の利便性
4	バスの利便性
5	歩行者・自転車のための道路の快適性・安全性
6	公共施設や駅舎・駅周辺等における歩道の段差解消、エレベーター設置など
7	最寄駅周辺の駐車・駐輪施設の充実度
8	公園の魅力や使いやすさ
9	災害に対するまちの安全性

I. お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問1 地域類型別（生活利便施設へのアクセス）

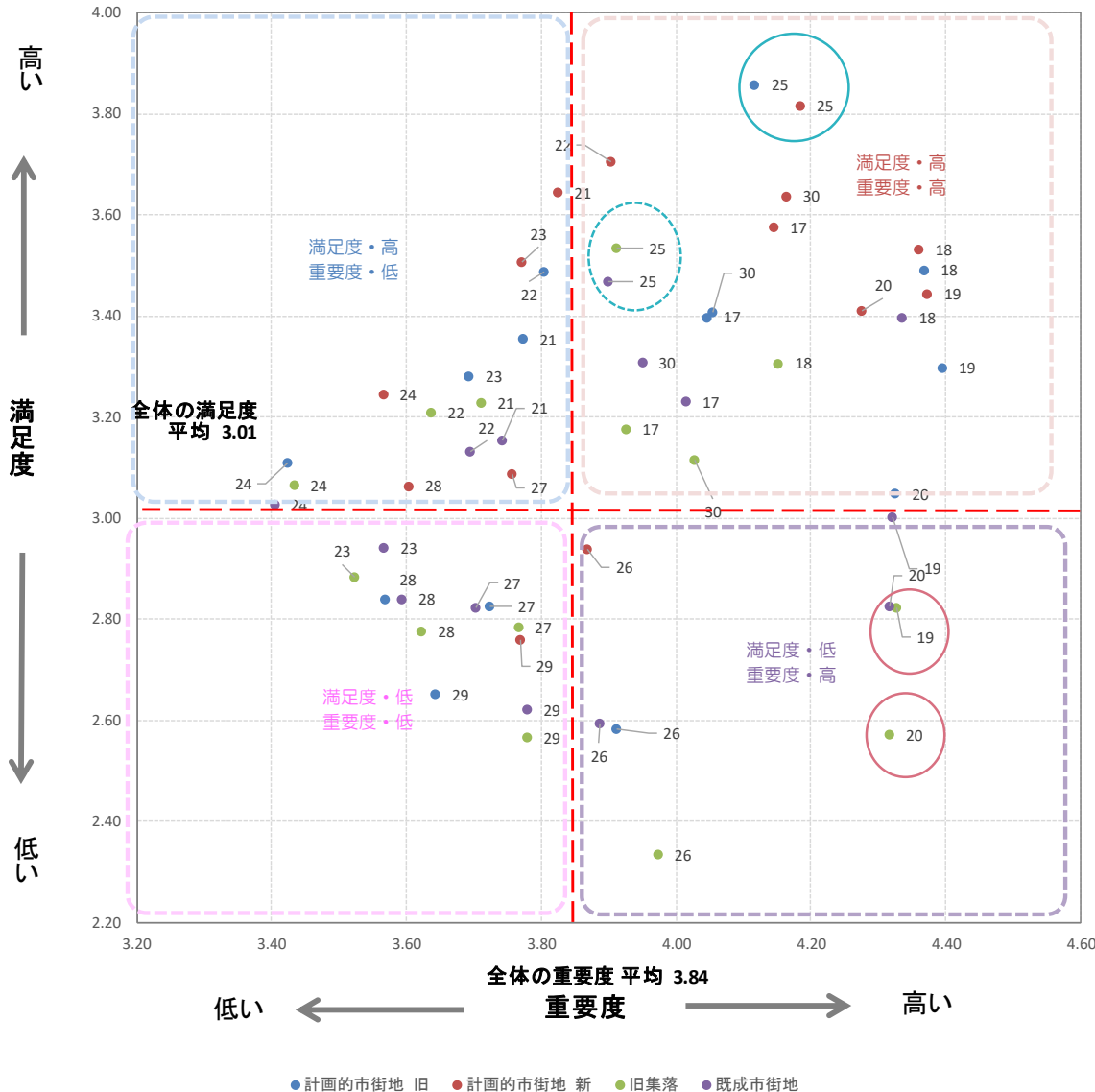


旧集落では、日常の買い物、高齢者福祉施設への通所、通院に関する満足度が低く、重要度が高い。

- | |
|-----------------------------------|
| 10 日常の買い物の便利さ |
| 11 子育て支援施設への行きやすさ |
| 12 高齢者福祉施設への行きやすさ |
| 13 病院・診療所等への行きやすさ |
| 14 生涯学習施設（図書館・コミュニティセンター等）への行きやすさ |
| 15 公園への行きやすさ |
| 16 体育館等の運動施設への行きやすさ |

I. お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問1 地域類型別（居住環境など）

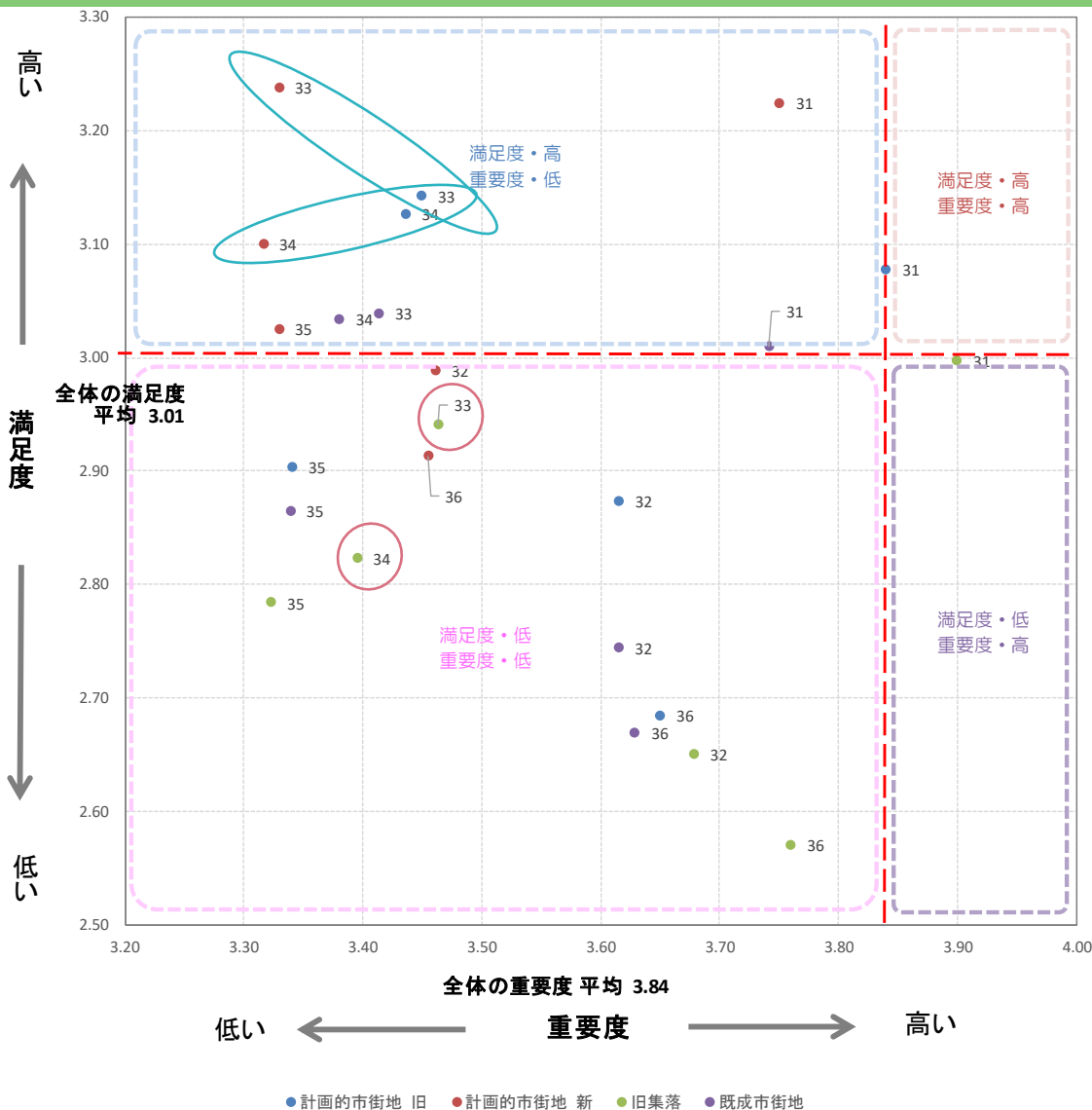


旧集落では、災害時の避難や住宅の安全性等の満足度が低く、重要度が高い。計画的市街地では、「閑静でゆとりのある居住地」の満足度が高く、重要度も高い

17	子どもの教育環境の良さ
18	治安の良さ
19	災害時等の自分の住まいの安全性
20	災害時等の避難場所や避難経路
21	緑・農地・水辺等、自然を楽しむ空間の充実度
22	まちなみや景観の良さ
23	街路樹の美しさ
24	歴史や伝統文化の身近さ
25	閑静でゆとりのある住環境
26	商店街など身近なお店の活気
27	お気に入りの飲食店やお店の充実度
28	お店以外のお気に入りの場所の充実度
29	働く場の充実度
30	総合的に見た地域への満足度

I. お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問1 地域類型別（コミュニティ）



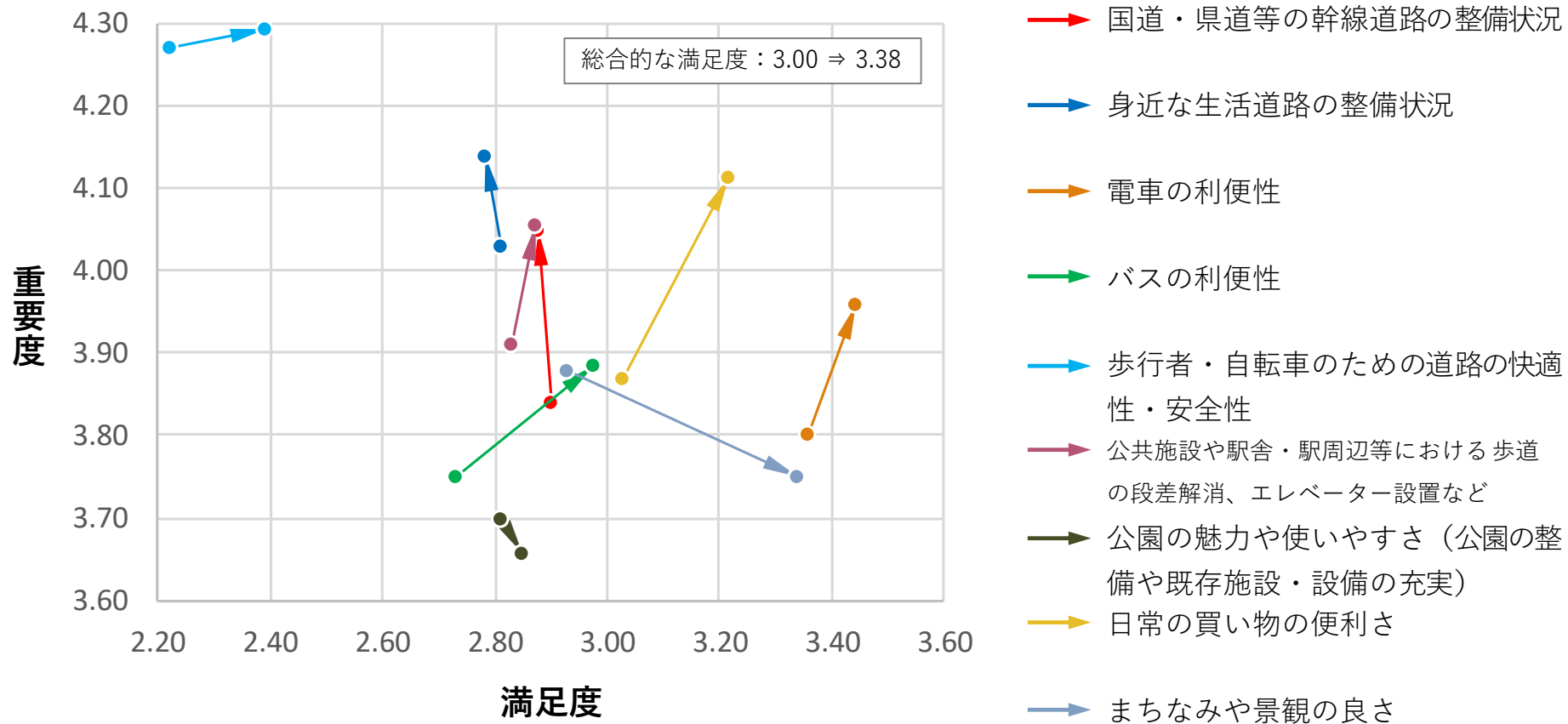
計画的市街地では、「地域の祭りやイベントなどの充実度」や「地域に活気をもたらすサークル活動や市民活動の活発さ」の満足度が高いが、旧集落では低くなっている。

31	地域内の知り合いや頼れる人の多さ
32	地域での自分の思いや声の届きやすさ
33	地域の祭りやイベントなどの充実度
34	地域に活気をもたらすサークル活動や市民活動の活発さ
35	地域での新しい活動へのチャレンジのしやすさ
36	地域活動の世代交代の進み具合

I . お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問1 平成21年調査からの推移

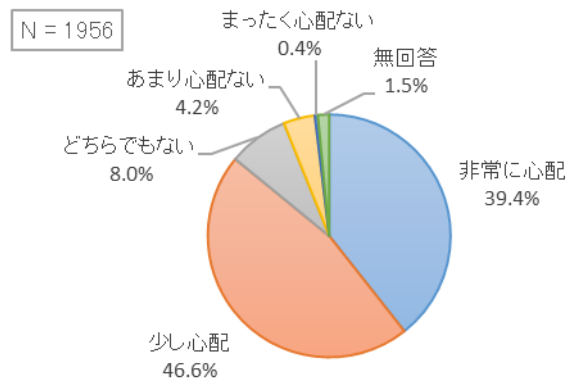
- 「国道・県道等の幹線道路の整備状況」「身近な生活道路の整備状況」以外の満足度は上昇
- 「公園の魅力や使いやすさ」「まちなみや景観の良さ」以外の重要度は上昇



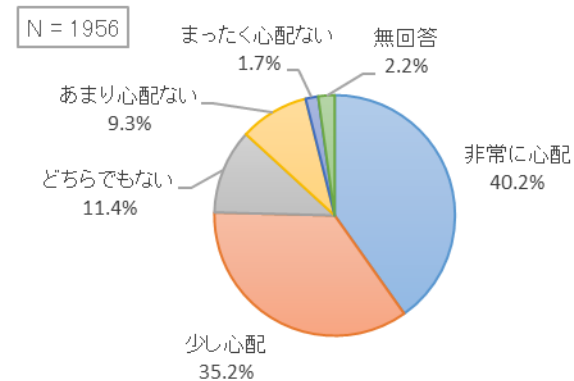
I . お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問2 10年後を想定し感じる事（心配が7割以上）

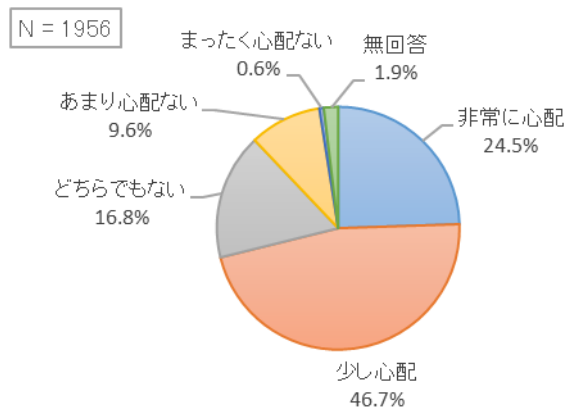
問2-1 人口減少や高齢化



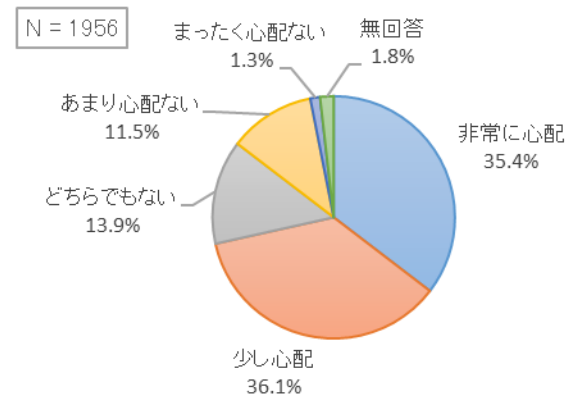
問2-9 車を運転しなくなった際の、 日常の移動手段の確保



問2-3 空き地や空き家などの増加による 住環境の悪化



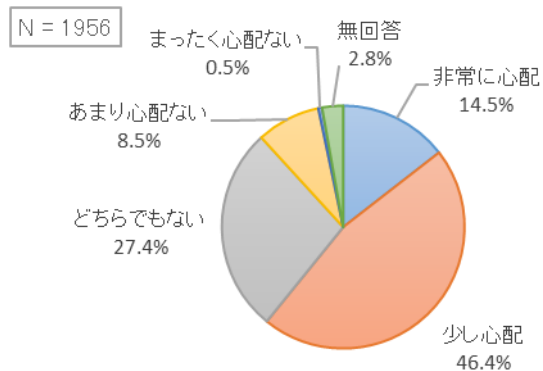
問2-10 スーパーなど、食料品・日用品を 買う店の撤退



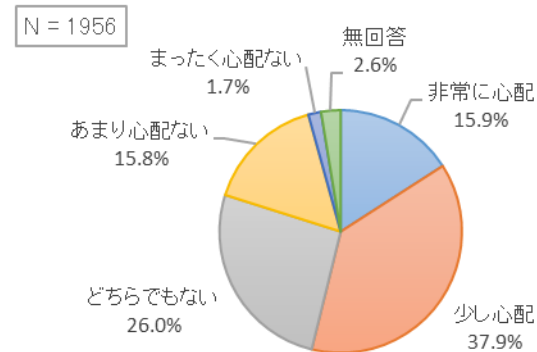
I . お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問2 10年後を想定し感じること（心配が半数以上）

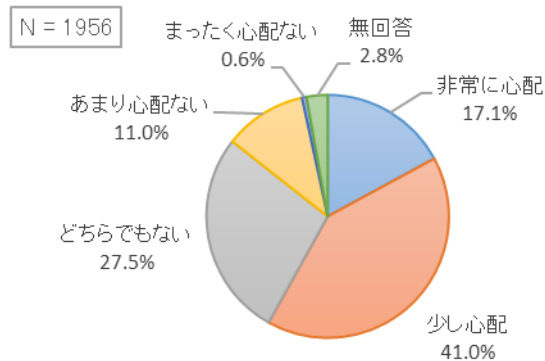
問2-2 地域コミュニティの持続性



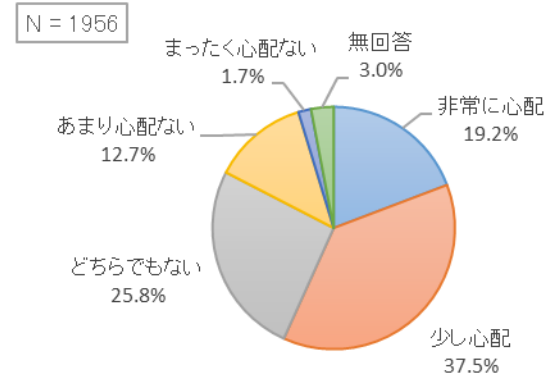
問2-7 豊かな自然環境の減少



問2-5 地域への転入者や新規出店が少ないことによる地域の衰退



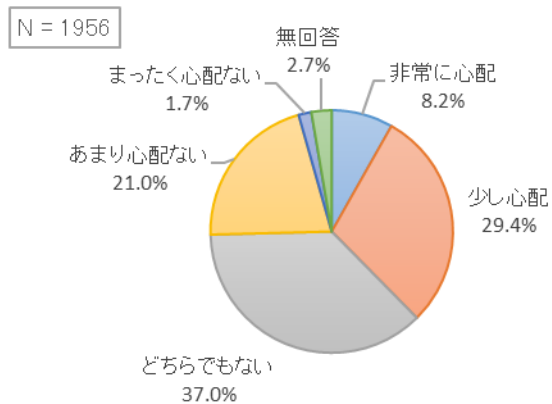
問2-8 手入れの行き届いていない山林や原野の増加



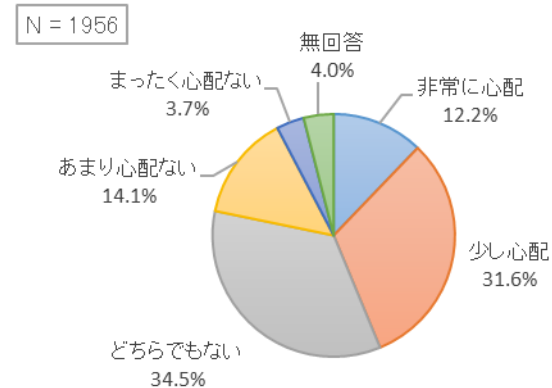
I . お住まいの地域における現状の満足度・今後の重要度

問2 10年後を想定し感じる事（心配が半分以下）

問2-4 地域への転入者や新規出店による
住環境の悪化



問2-6 耕作が放棄された農地の増加



Ⅱ. 住まいに関する考え方について

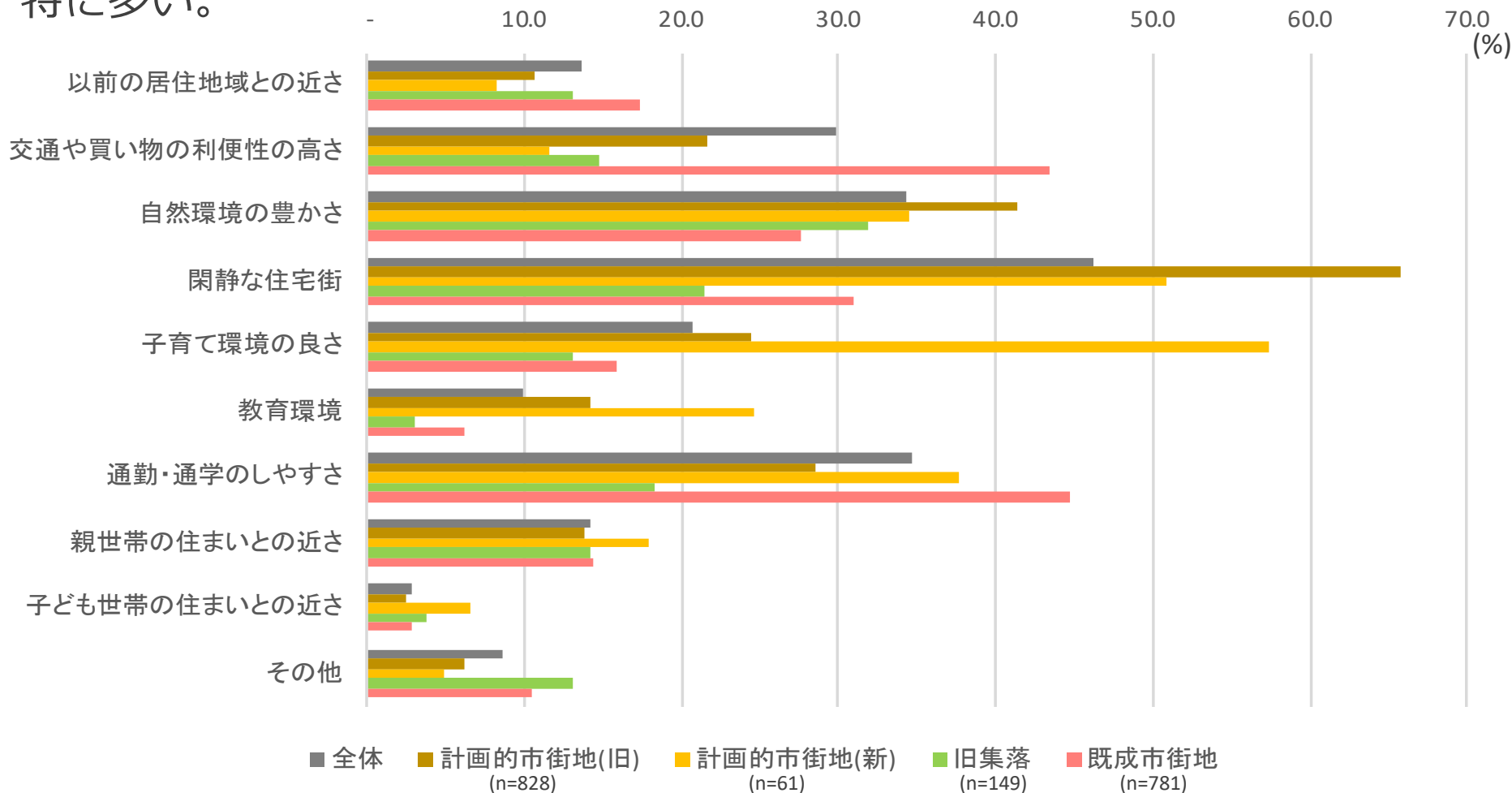
分析の視点

1. ライフステージや家族形態に着目した居住状況の把握
⇒ **生駒市の新たな居住モデルの検討材料に**
2. 居住地や住宅の種類を選択要因やニーズの分析
⇒ **定住・移住促進に向けた施策の検討材料に**
3. 中古住宅の活用や住替えに対するニーズ把握
⇒ **取組の方針や施策立案の検討材料に**

Ⅱ. 住まいに関する考え方について

問3 (3) 現在の住まいを選んだ理由 (地域類型別)

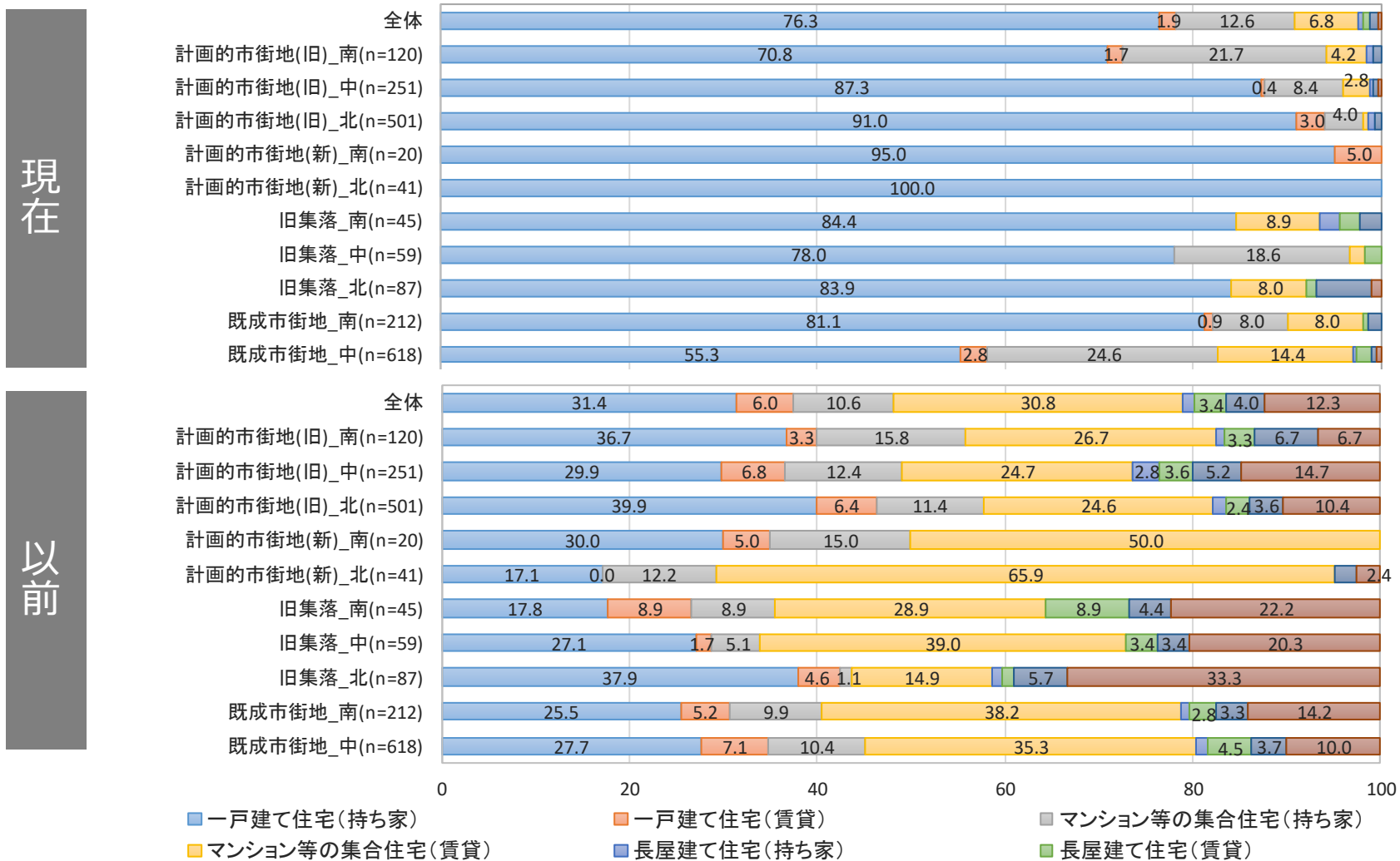
計画的市街地・旧では「閑静な住宅街」、計画的市街地・新では「子育て環境の良さ」、旧集落では「自然の豊かさ」、既成市街地では「交通至便」が特に多い。



Ⅱ 住まいに関する考え方について

問3、3-1 現在及び以前住んでいた住宅の種類（地域類型別）

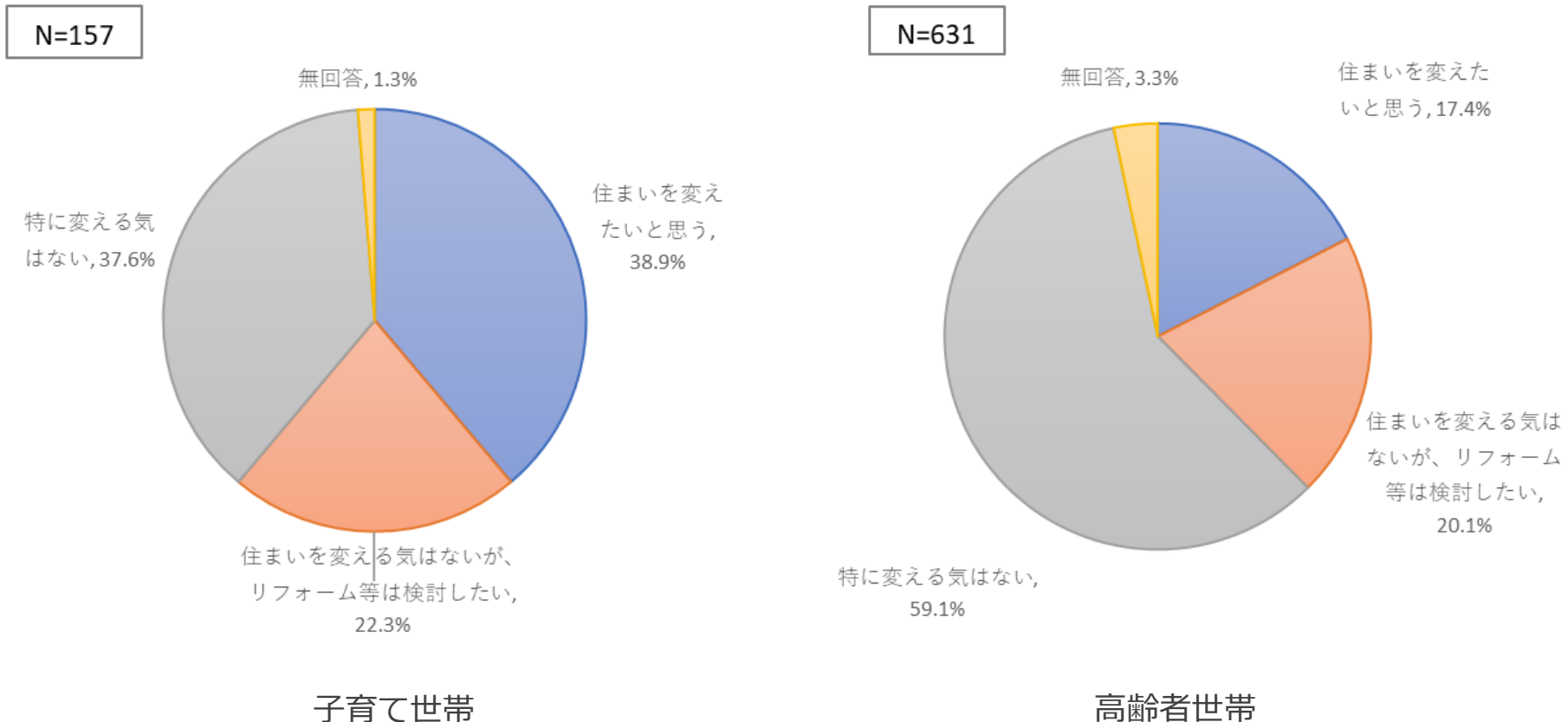
どの地域類型においても、集合住宅（賃貸）⇒戸建住宅（持ち家）といった住宅取得の流れが推察される。



Ⅱ. 住まいに関する考え方について

問4 次のライフステージで住まいを変えることに関する意向（子育て世帯・高齢者世帯※）

子育て世帯の4割弱、高齢者世帯の2割弱が住まいを変えたいと思っている。

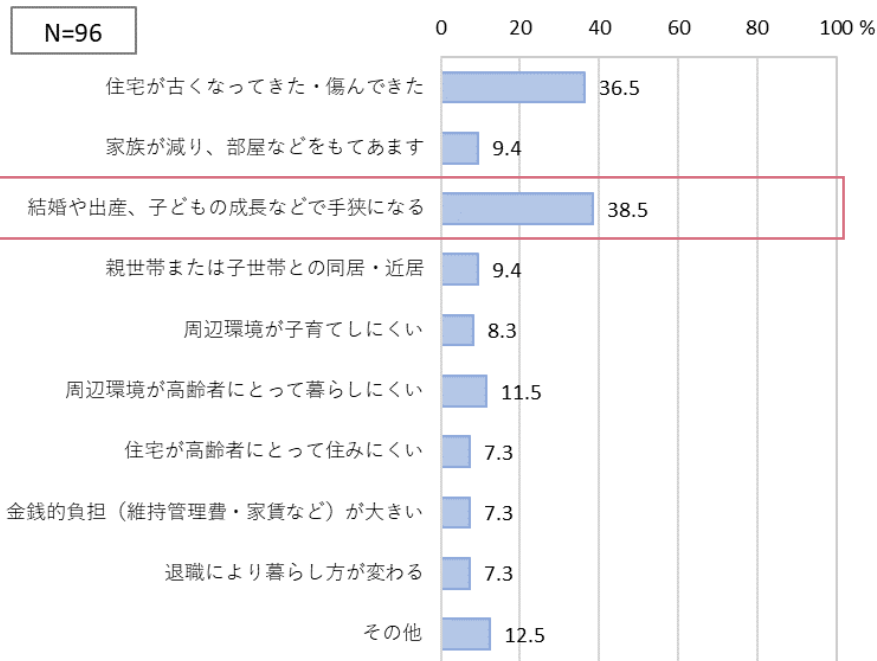


※子育て世帯：6歳以下の子どもがいる核家族
 高齢者世帯：60歳以上の単身・夫婦・兄弟のみ世帯

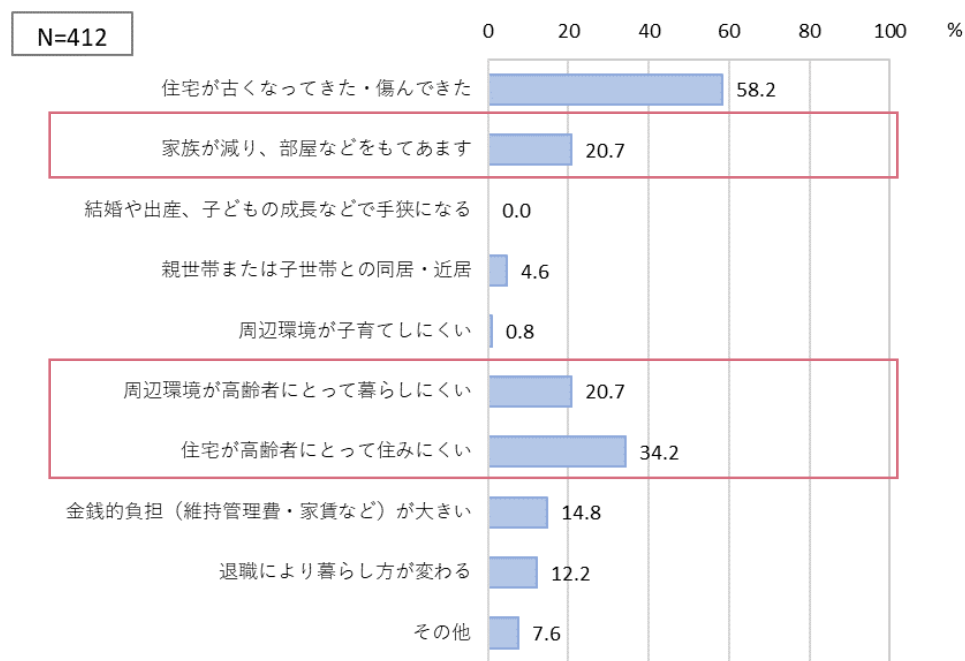
Ⅱ. 住まいに関する考え方について

問4-1 住まいを変えたい理由（子育て世帯・高齢者世帯）

子育て世帯は、「結婚や出産、子どもの成長などで手狭になる」が最も多く、高齢者世帯は、住宅や周辺環境が高齢者に不向きであることが理由となっている。



子育て世帯

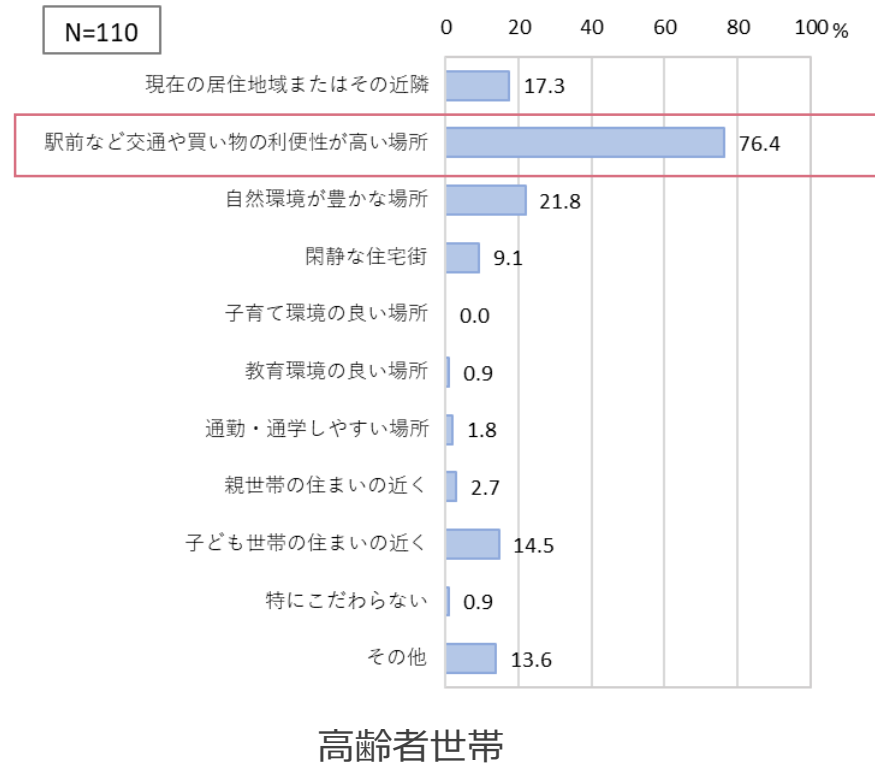
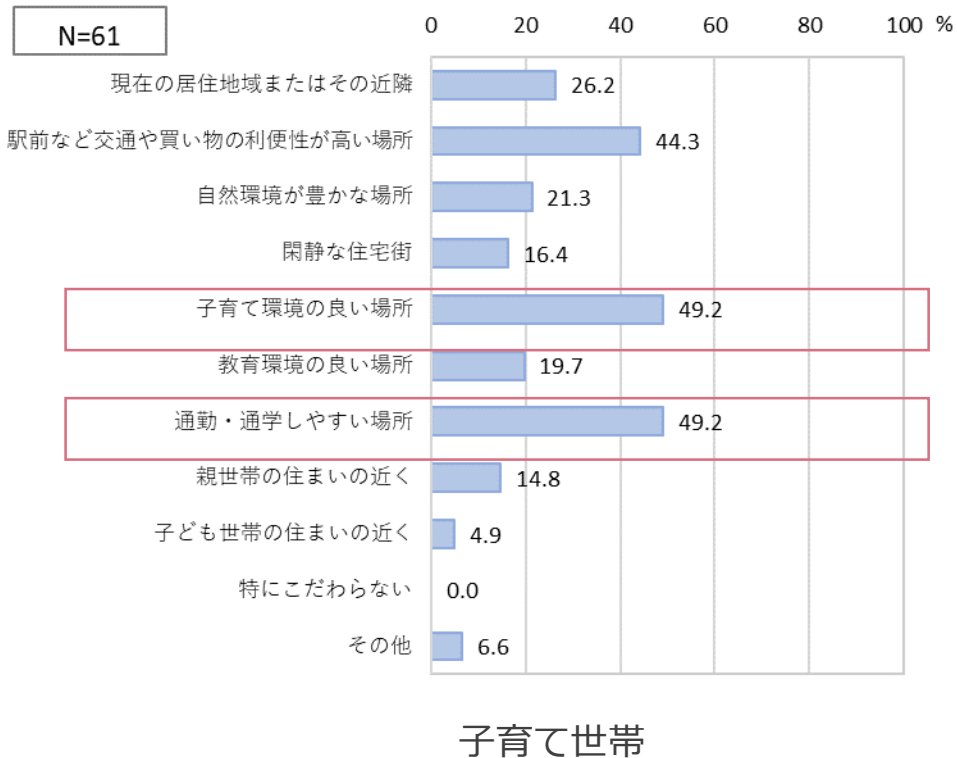


高齢者世帯

Ⅱ. 住まいに関する考え方について

問4-2(1) どのような場所に住みたいか（子育て世帯・高齢者世帯）

子育て世帯は、「子育て環境」や「通勤・通学」を重視、
 高齢者世帯は、「交通や買い物の利便性」を重視している。

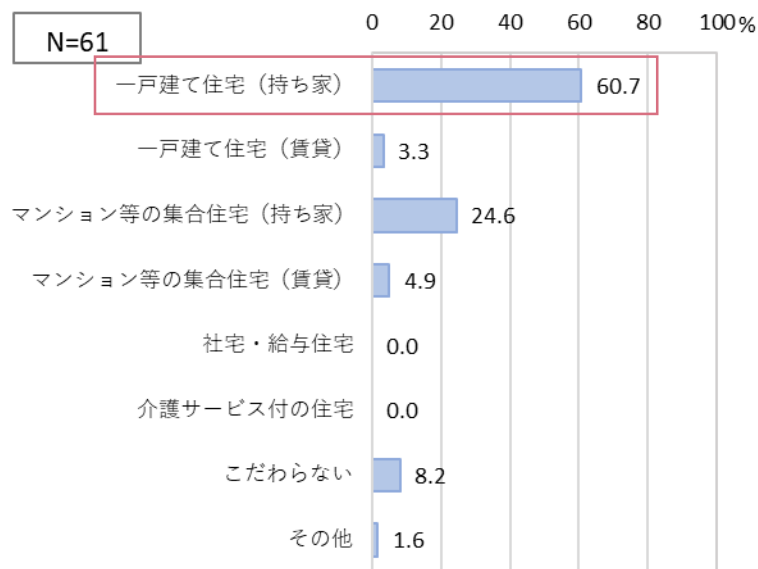


※特に優先するもの3つ以内を回答

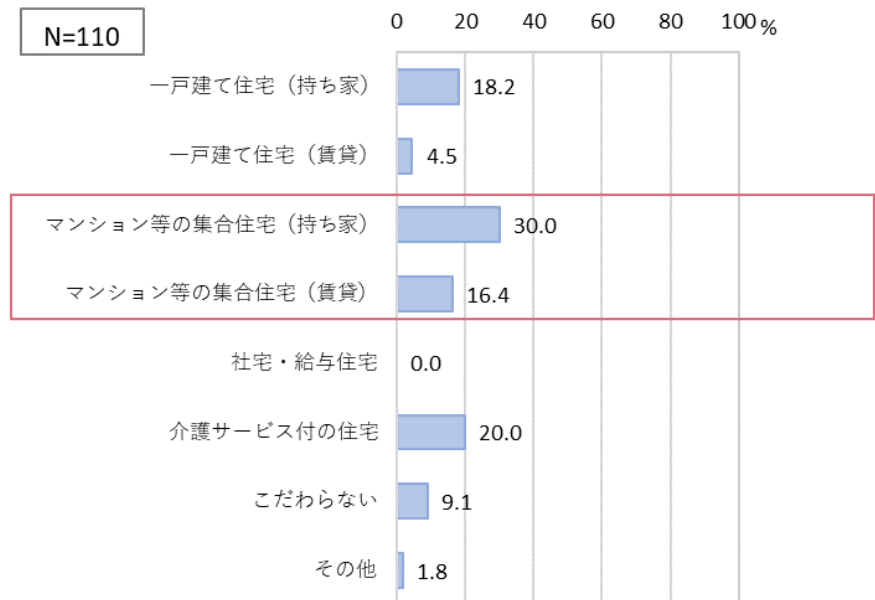
Ⅱ. 住まいに関する考え方について

問4-2(2) どのような住宅に住みたいか（子育て世帯・高齢者世帯）

子育て世帯は、一戸建て住宅（持ち家）を志向する傾向にあるが、高齢者世帯は、マンション等の集合住宅に対するニーズも高い。



子育て世帯



高齢者世帯

Ⅲ. 働き方について

分析の視点

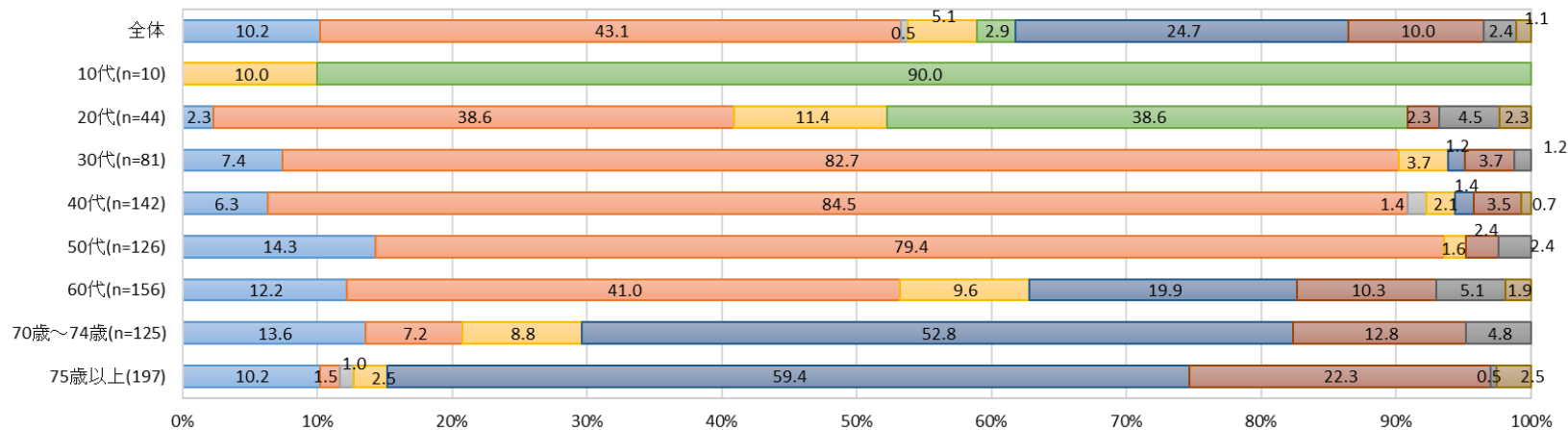
1. 性別・年代別に現在の職業や就労ニーズを把握
⇒理想とする就労環境の実現に向けた取組方針の検討材料
2. 地域別に通勤・通学の状況を把握
⇒多様な働き方が実現できる都市構造の検討材料

Ⅲ. 働き方について

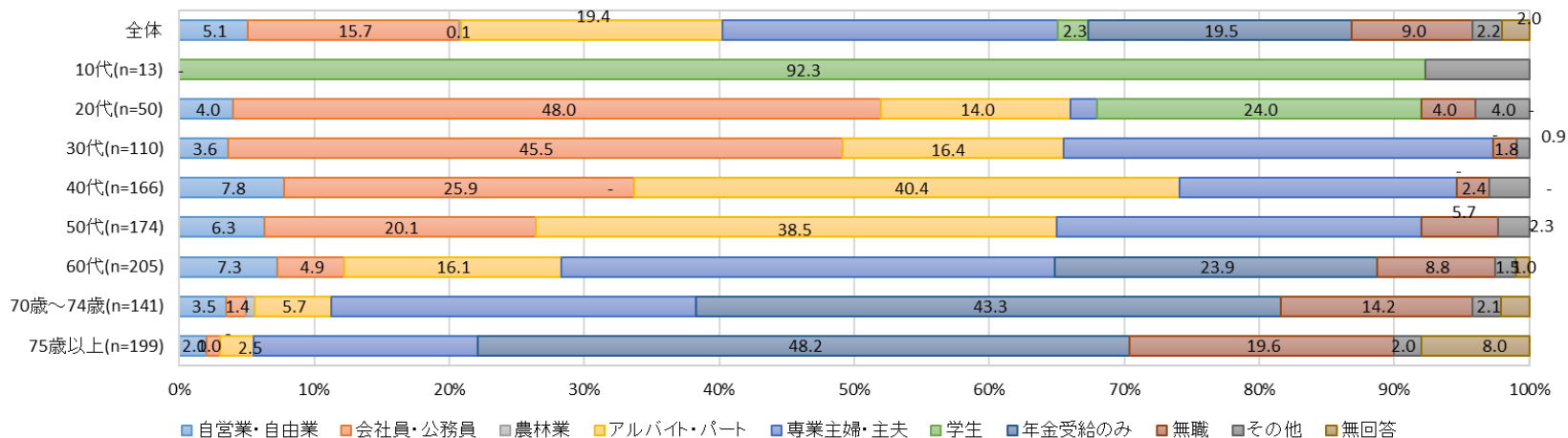
問5 職業（年代別）

30～60代の女性は「アルバイト・パート」や「専業主婦」の割合が多く、50代以上の男性は「自営業・自由業」の割合が比較的高い。

男性



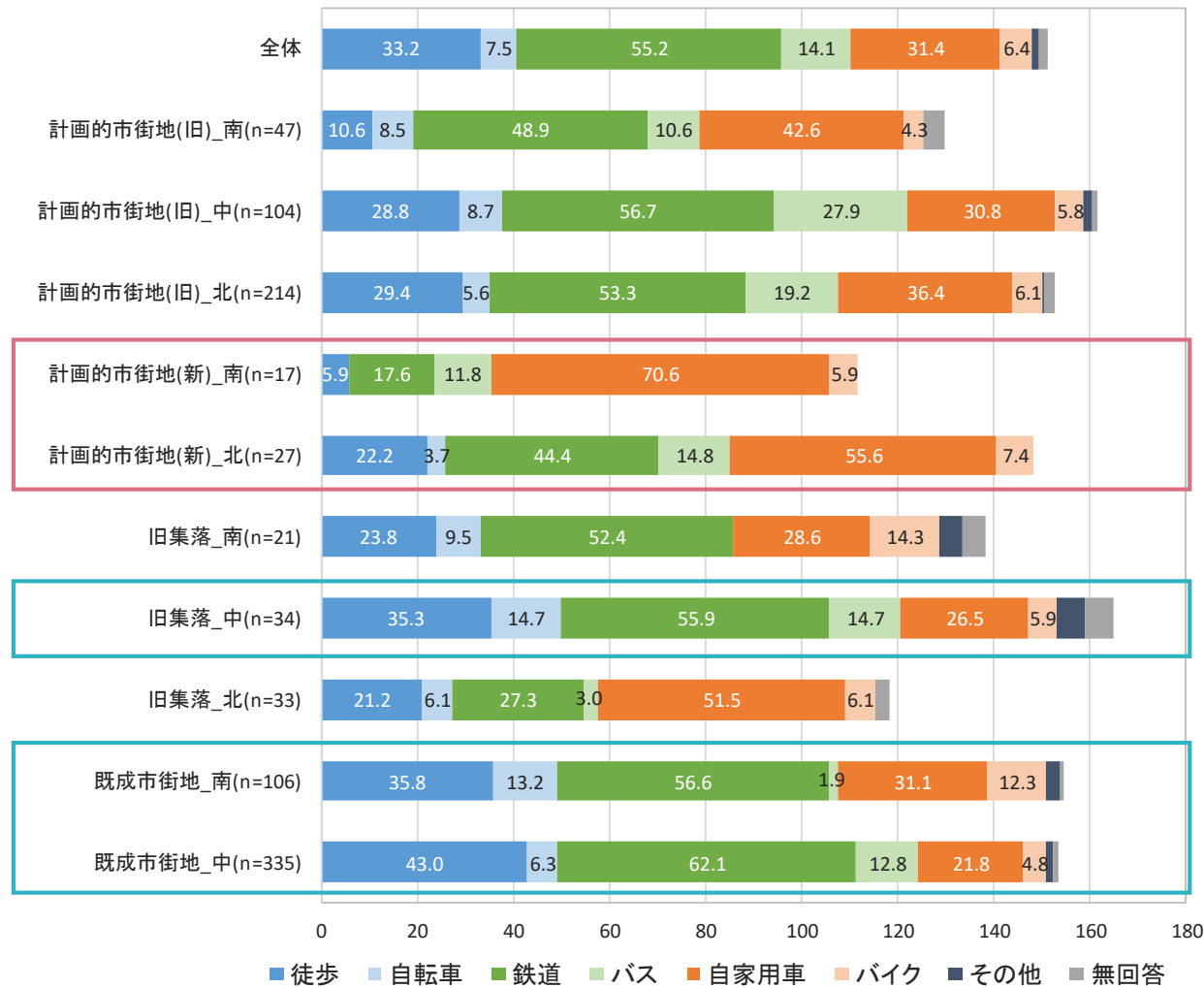
女性



Ⅲ. 働き方について

問5-1 通勤・通学手段（地域類型別）

既成市街地や旧集落・中で、徒歩や公共交通による通勤・通学が多くなっている。
計画的市街地（新）では、自家用車による通勤・通学が多くなっている。

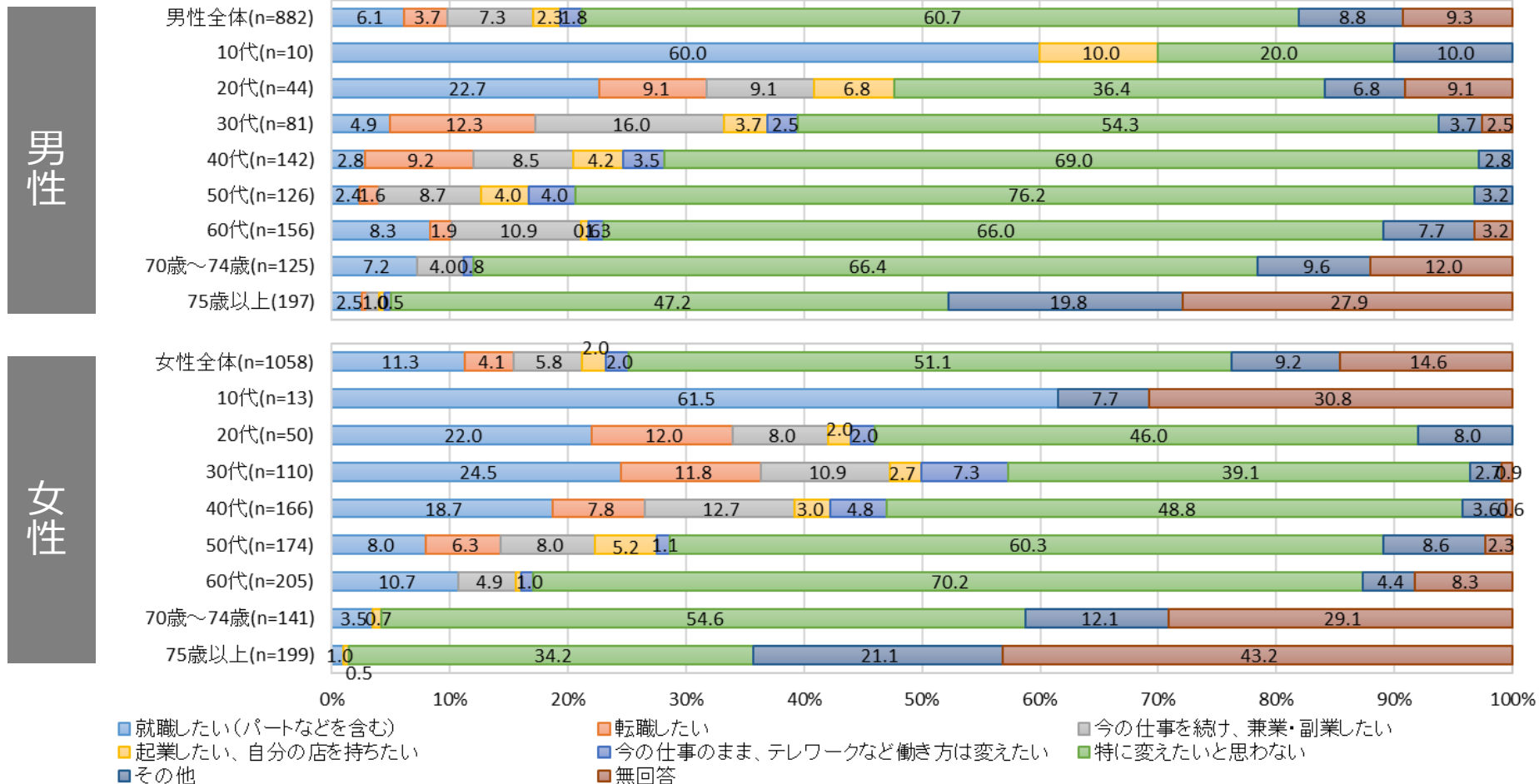


※複数の交通手段を回答している人は、それぞれに重複し算入している。そのため、集計数の合計と回答者数の合計が異なっている。

Ⅲ. 働き方について

問6 今後の仕事に対する意向（年代別）

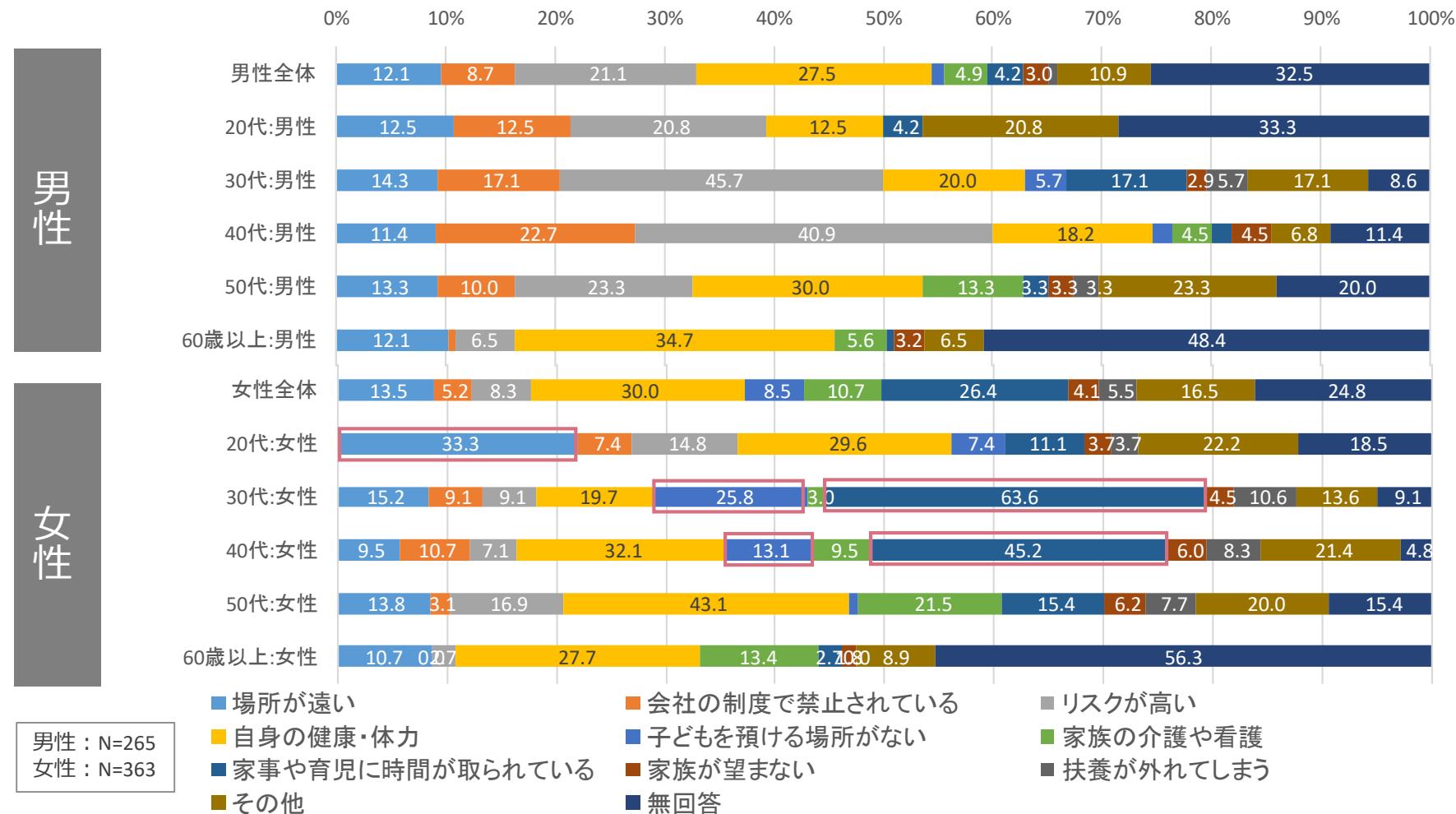
若年層ほど、仕事に関して変化を求めている傾向にある。
30代～40代においては、女性の就業意向が高くなっている。



Ⅲ. 働き方について

問 6-2 仕事を取り巻く環境を変えるためのハードル（年代別・性別）

30代～40代女性にとって、託児先や家事・育児の問題が就労のハードルとなっている。



IV. 地域やコミュニティとの関わりについて

分析の視点

1. 地域住民のつながりや活動が生活の満足度に与える影響を把握
⇒まちづくりの促進方策を検討

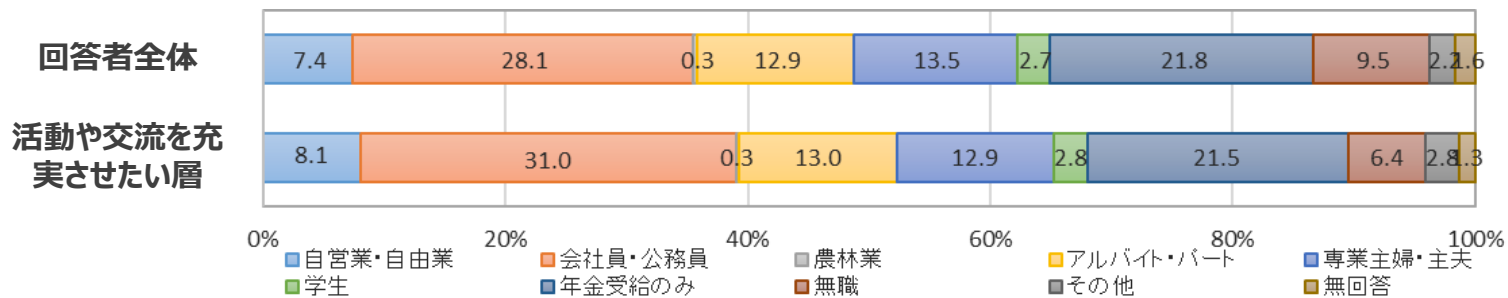
2. 地域資源・人材の把握
⇒「地域特性に応じたまちづくり」の検討材料に

IV. 地域やコミュニティとの関わりについて

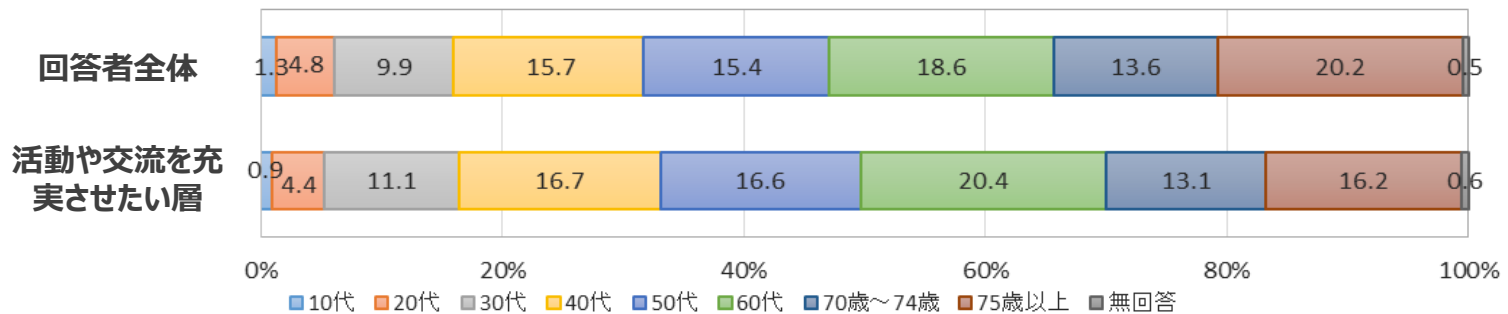
問10 地域の人たちと一緒に活動や交流を充実させたいと思う層の内訳

充実させたいと思う層は、概ね回答者属性と同様の傾向で、年代や居住地域・職業による偏りはみられない。

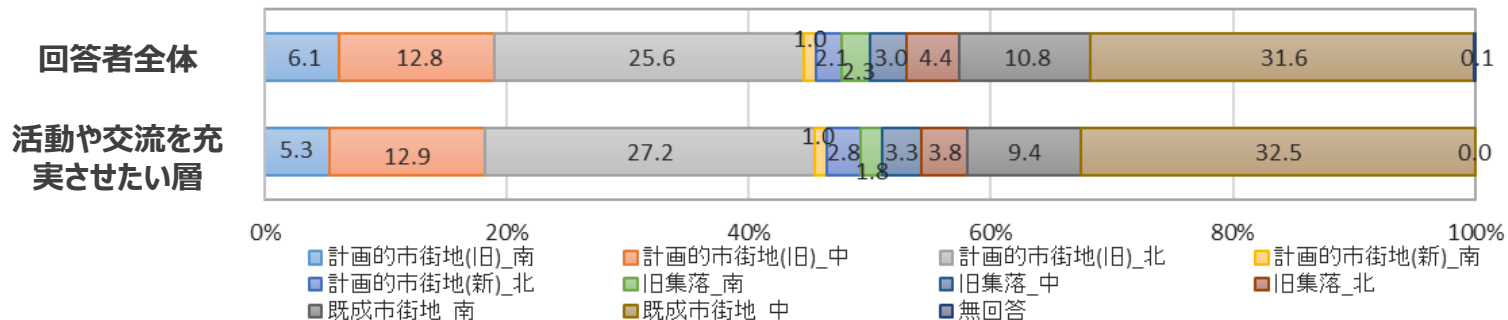
職業



年代



居住地域



V. 回答者の家族について

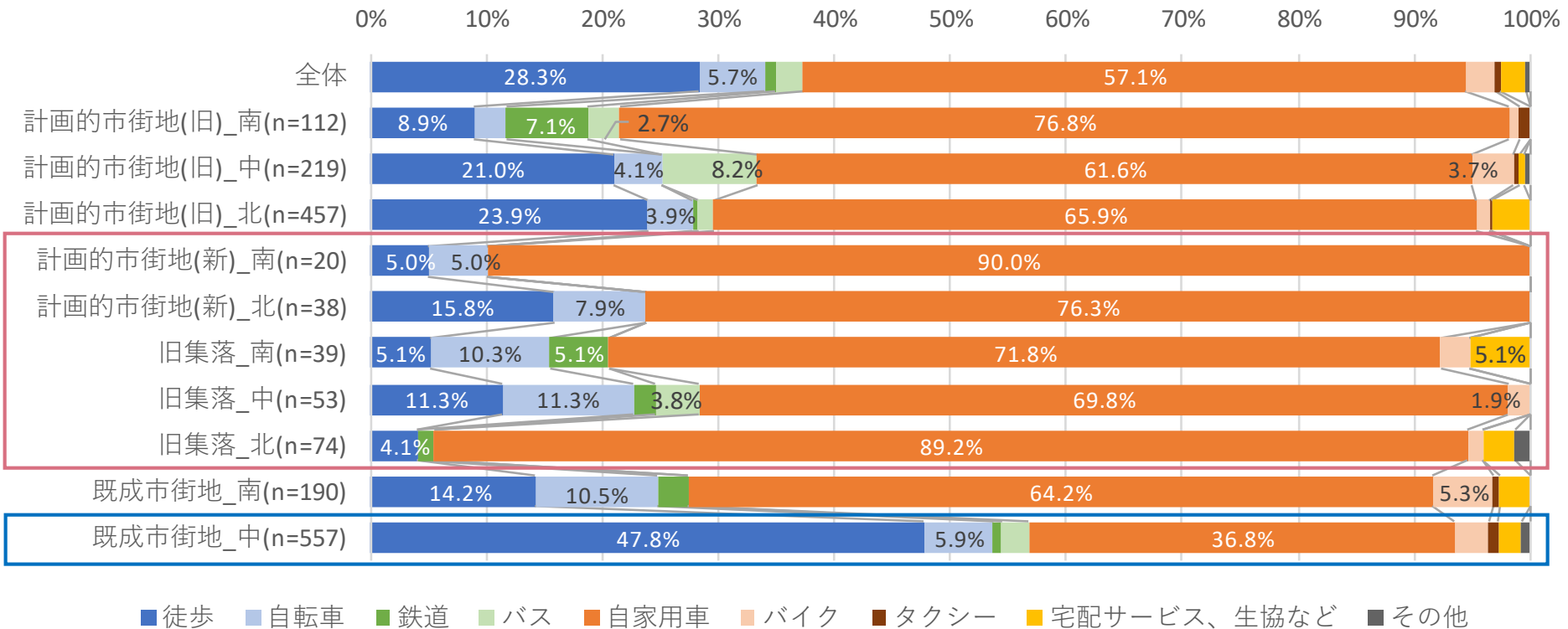
分析の視点

1. 「買い物」「通院」等の“行き先”“交通手段”から、
市民の移動実態を把握
⇒都市構造のあり方の検討材料に

V. 回答者の家族について

問 1 5 生鮮食品の買い物の手段（地域類型別）

既成市街地中では、徒歩の分担率が高くなっている。
計画的市街地（新）、旧集落では、自動車の分担率が特に高くなっている。



VI. 回答者自身について

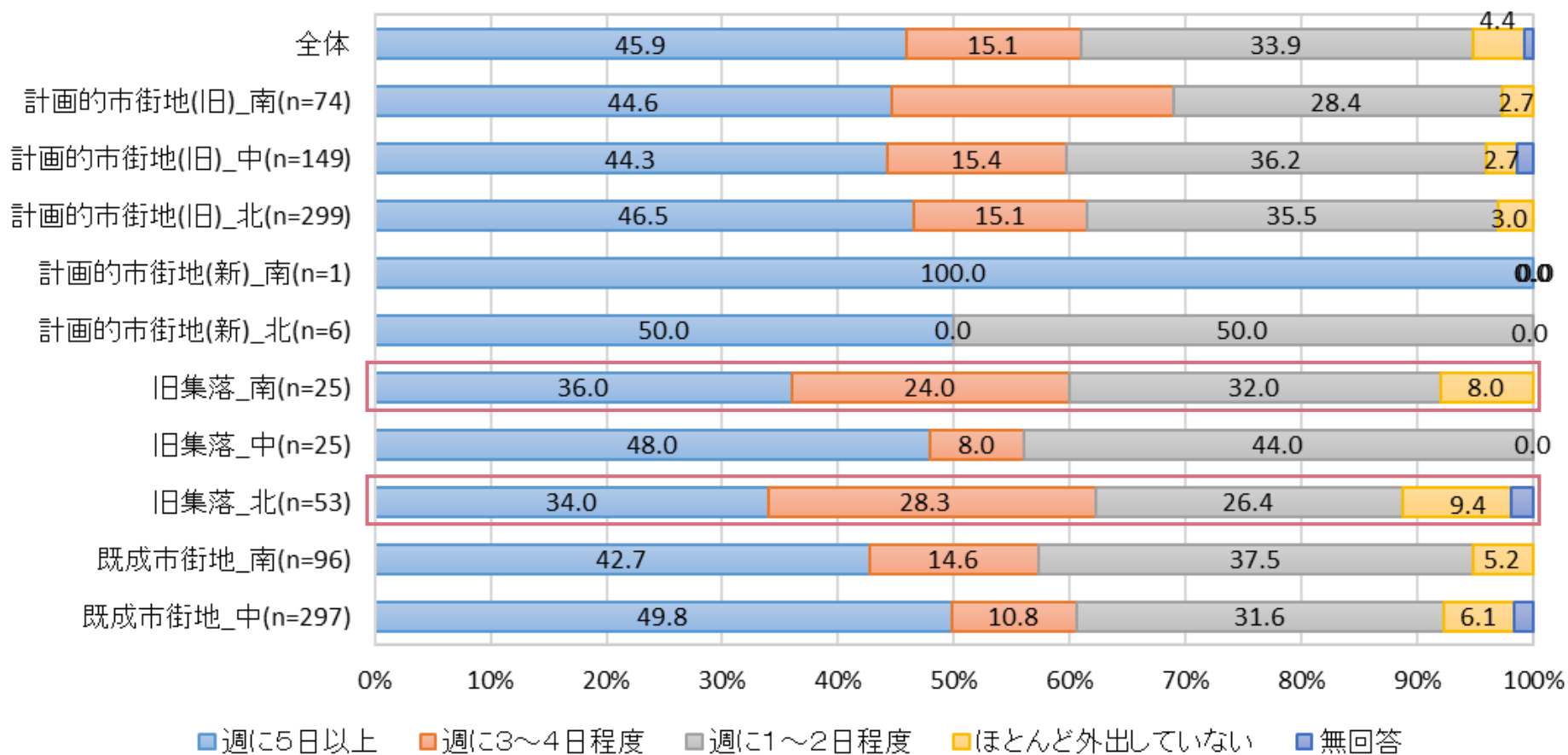
分析の視点

1. 地域別の外出頻度の把握
⇒**外出のハードルとなる地域別の要因について分析を行う**

Ⅵ. 回答者自身について

問2 1 高齢者（60歳以上）の外出頻度（地域類型別）

旧集落北や既成市街地南では、やや外出頻度が低い傾向にある。



(総括) 意向調査から見える各地域類型における特徴

分析の視点

計画的市街地 (旧)

- ◎ 「閑静な住環境」や「自然環境の豊かさ」を理由に住まいを選択している人が多く、「閑静でゆとりのある住環境」の満足度と重要度が特に高い
- ◎ コミュニティの維持や空き家の発生など、人口減少・高齢化に関連して発生する課題への危機意識が高い
- ◎ 居住期間が長く、一戸建住宅の持ち家に住む者が多い
- ◎ 買い物等の手段としては、北・南の地域で自家用車の分担率が高くなっており、中地域ではバスの割合が高くなっている

計画的市街地 (新)

- ◎ 「閑静でゆとりのある住環境」や「まちなみや景観の良さ」に対する満足度と重要度が高い
- ◎ 一方、「バスの利便性」に対する満足度が特に低くなっている
- ◎ 居住期間は短く、一戸建住宅の持ち家に住む者が多い
- ◎ 買い物等の手段としては、自家用車の分担率が特に高くなっている

(総括) 意向調査から見える各地域類型における特徴

分析の視点

旧集落

- ◎「生活道路の整備状況」等の交通インフラや「日常の買い物の便利さ」の満足度が低く、重要度が高くなっている
- ◎コミュニティの維持や空き家、耕作放棄地等の発生など、人口減少・高齢化に関連して発生する課題への危機意識が高い
- ◎居住期間が長く、一戸建住宅の持ち家に住む者が多い
- ◎買い物等の手段としては、自家用車の分担率が特に高くなっている

既成市街地

- ◎「日常の買い物の便利さ」や「鉄道の利用しやすさ」に対する満足は比較的高いが、地域別にみると中地域が特に高く、南地域が低くなっている
- ◎食料品日用品を買う店舗の撤退についても、中地域では心配する声が少ない一方、南地域では危機意識が高い
- ◎特に中地域では、持ち家・賃貸ともに、比較的マンション等に住む者が多くなっている
- ◎買い物等の手段としては、中地域では最も徒歩の分担率が高くなっている一方、南地域では自家用車の分担率が高くなっている